



まちづくり

18 才 の 決 意

脚本・絵 中村ルミ子

①

演出のポイント

みんな「お誕生日　おめでとう！」

今日は、サヤカさんの十八回目の誕生日です。

父 「サヤカが生まれた年に引っ越してきたから、狭山に住んで十八年になるんだな！」

お父さんが、しみじみ言いました。

母 「そんなになるのね。でも狭山って変わらないわ。
相変わらず どこって特色もなくて、つまらない所よね。
どうにかならないかしら」

サヤカ 「お母さん！」

母 「あら、なに？」

サヤカ「協働によるまちづくり条例が 制定されたの知ってる？」

意外そうに
強く

↓ ぬきながら ↑

母 「はあ？ きようどうによるまちづくり…って」



②

母
サヤカ

「新しいマンガ？」
「違う。お母さん、そもそも条例って なんだか

母
祖母
サヤカ

「知ってるの？」
「じよ、条例って…ええと…」
「まあ、ユカリさん、そんなことも知らないのね」
「おばあちゃん、知ってるの？」
「知つてますとも、それはね…」

とぼけたように
とまじごう
あきれたように
自信をもって

↓ さつと ぬく ↑

父 祖母

「悪い靈をお払いすることよ。ええいつ！」

「ハハハハ、おばあちゃん、それは、除靈。

条例とはね。地方公共団体、つまり埼玉県とか狭山市が
議会の決議により 自主的に制定する法律みたいなものだよ」

最後を強く



③



④

ツバサ「お父さん、知ってるんだ。すごい！ かつこいい」
父 「そうだろ、ツバサ。お父さんを みならえよ。エヘン」

サヤカ 「じゃあ、お父さんはもう『協働によるまちづくり条例』を

読んだのね」

父 「い、いや、それは、まだ だけど…」

ツバサ 「なんだ、お父さん、かつこ悪い」

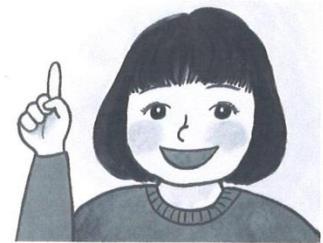
父 「シユン…」

ツバサ 「おねえちゃん、その条例って なんなの。教えて」

なきげなく
感心して
いばつて

↓ ぬきながら ↑

サヤカ 「いいわよ。この条例はね…」



⑤

サヤカ 「狹山市が市民と共に、協働のまちづくりをするためのルールよ」

ツバサ 「きょうどうつて、なに？」

サヤカ 「いっしょに協力しあつて活動するつてこと」

ツバサ 「いっしょに、まちをつくるつてことだね！」

サヤカ 「そのとおり。狹山を住み続けたいまちにするためには、まちへの愛着と誇りを持ち、そして行動力を持つた市民の力が必要なの。

だれか、どうにかしてじや、まちは変わらない。

お母さん、分かる？」

母 「は、はい」

サヤカ 「自分達で活力にみちた笑顔あふれる地域社会を実現させる。

それが、創造型共生社会よ！」

↓ ぬきながら ↑

気づく

あせつて

はつきり

みんな 「創造型共生社会よ！？」

不思議
そうに

創造型共生社会



⑥

サヤカ 「そう、子ども達に夢を、若者に希望と挑戦を、高齢者には安心安全と輝きを！」

力強く

父 「それは、確かに素晴らしいけど、そんなにうまくいくかね？」
サヤカ 「お父さん、良い質問よ。この条例のすごいところは、狭山市は

人材が育つ機会を提供し、まちづくりに必要な仕組みを整備する
ことが書かれているところなの。しかも、この条例を検討した
市民検討委員会の提言には、「協働のまちづくりセンター」や
『協働のまちづくり基金』を設置するという提案が入っているの」
「ほう、まちづくりセンター、いいね。それに、まちづくりには
お金がいるから、資金援助してもらえる仕組みがあると 本当に
実現しそうだね」

サヤカ 「でしょ。お父さんなら、狭山を どんなまちにしたい？」

↓ ぬきながら ↑

父 「そうだね、お父さんなら…」

父

「スポーツのまちにしたいな。なんたって、狭山市はオリンピック開催都市だし、なでしこリーグで活躍中の女子サッカーチーム・エルフエン埼玉の発祥の地でもあるしね。ツバサ、おまえもサッカー好きだろ？」



⑦

ツバサ 「うん、 ただけど、 ぼくは…」

↓ ぬきながら ↑

夢見る
よう
に



(8)

ツバサ 「遊び場が、もつともっと欲しいな。入間川の周り全部が
巨大遊園地だつたらいいな」

あこがれる
よう

祖母

「じゃあ、わたしは…」

↓ ぬきながら ↑



⑨

祖母

「遊び場じやなくて、たまり場が欲しいわね。おいしい狭山茶を
飲みながら、おしゃべり出来るとこころが、あちこちにあると
いいわね」

うつとり
するよう

↓ ぬきながら ↑

母

「たまり場もいいけど、わたしは料理好きだから……」

母

「狭山茶や、サトイモ、ゴボウとか狭山特産の野菜をたっぷり使ったお料理が、気軽に食べられるカフェやレストランがたくさんあるといいわね。ところで、サヤカ、あなたはどんなまちにしたいの」



⑩

明るく

サヤカ 「わたしはね…」

↓ ぬきながら ↑



(11)

サヤカ 「狭山で生まれて 育つて、このまちが大好きなの。だから
狭山の良さを発信したい、日本中に、いえ世界中に。
たくさん的人に来てもらえる まちにしたい」

はつきりと
伝えるように

↓ ぬきながら ↑

ツバサ 「おねえちゃん、かつこいい。なんか、今までと違う人みたい」

感心して



(12)

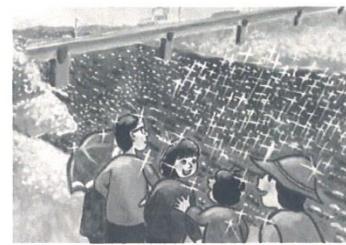
サヤカ 「だって、わたしは、今日から十八才。選挙権があるんだから自分でちゃんと考えて、まちをつくっていきたい。
志を持った志民になりたいの」

みんな 「志民ね！」

宣言するよう
に
はつきりと
大きな声で

↓ ぬきながら ↑

翌日、一家は、散歩に行きました。



⑬

母 「今日は、いつもより入間川が きれいに見えるわ」

お母さんは、目を細めました。

ツバサ 「あつ、おねえちゃん、光ってる！」

サヤカ 「ツバサも、お父さんも、お母さんも、おばあちゃんも
みんな、光ってるよ」

驚いて

↓ ゆっくり ぬきながら ↑

母

「サヤカ、お母さん、創造型共生社会って、分かったような
気がする」

納得した
よう

⑭



母 「子どもから高齢者まで、まちづくりへの想いは、このさざなみの
ようにたくさんあって、その想いが 全て輝くことなのね」
サヤカ 「お母さん、そのとおり！」

↓ ちょっと 間 ↑

気持ちを
こめて
強く

協働によるまちづくり条例はワークショップ形式の『協働のまちづくり意見交換会』を各地区で行うところからはじめ、さらに、まちづくり条例市民検討委員会で話し合いを重ねました。

狹山市は、「自分たちのまちは自分たちでつくる」を合言葉に、市民と市が力を合わせて、魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

みなさん、どうか この条例を読んで下さい。

そして、
いつしょに、輝きましょう！

明るく
力強く

おわり